



国際・情報

INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第14号

〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuis.ac.jp URL <http://www.nuis.ac.jp>

自分自身を
磨き続けた四年間。
輝きを増して、巣立つ時。



第五回卒業式



平成14年3月22日
 (金)午後1時より、新潟市民芸術文化会館において平成13年度卒業式が、晴れやかに、厳かに執り行われました。情報文化学科一・一五名、情報システム学科一七〇名の計二八五名が、この春、本学から社会へと巣立ちます。

式典には父兄も多数列席。学位記授与では卒業生全員の氏名が呼び上げられ、各学科総代が学位記を受け取りました。武藤学長の祝辞、学生表彰と続き、最後に情報文化学科の木村智子さんが卒業生代表として答辞を述べました。

午後6時からはホテル新潟で学生主催の卒業記念パーティーが開かれ、希望に満ちた新たな門出をにぎやかに祝いました。



学長告辞



新潟国際情報大学学長
 武藤 輝一

新潟国際情報大学、情報文化学部、情報文化学科並びに情報システム学科の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本日、多数のご来賓並びにご父兄にもご臨席頂き、第五回新潟国際情報大学卒業式を挙行できますことは、卒業生の皆様はもとより、本学にとりましても誠に喜ばしい限りであります。この日を迎えられた卒業生の皆さんに、またご父兄の皆さんに、新潟国際情報大学の役員、教職員一同を代表して、心からお祝い申し上げます。また、本日ご出席のご父兄の皆様方には、晴れの卒業式でご子弟を目の前にされ、お喜びは如何ばかりかとご推察申し上げますと共に、ご父兄の方々にご出席頂けましたことで卒業生の皆さんは感慨ひとしおのものがあろうかと存じております。

この度の本学の卒業生は情報文化学科百十五名、情報システム学科百七十名、合わせて二百八十五名であります。この様に希望と期待に溢れ、前途有望の皆さんを送り出すことができますのは、新潟国際情報大学にとって大きな誇りでありま。

皆さんが入学の頃、これから四年と想った長い苦の年月もあつと思つ間に過ぎ去つてしまいました。そして、今数々の懐かしい思い出が走馬灯のように、皆さんの脳裏に浮かんでいる事でしょう。いよいよ学窓を離れ、一部の人は大学院へ、多くの人は実社会と旅立つことになりました。社会は皆さんに、時には優しく、時には厳しく接することでしょう。大きい喜びもあれば、挫折の時があるかもしれません。しかし何事にも怯まず、恐れず、強固な信念を持ち、努力して自らの航跡を作り上げて下さい。皆さんの将来は皆さん自信の双肩にかかっています。

皆さんは、将来を担う人物を育成するという本学の建学精神を基に、大学設置基準の大綱化、即ち大学設置に関する規制緩和の中で教育を受けてきました。まさに二十一世紀に向けて育成された人材であります。国内は勿論、国際的にも対応しうる情報文化や情報システムを学びました。そして、これからの社会では、皆さんが得意とするインフォメーション・テクノロジーに加え、バイオ・テクノロジー・生物細胞技術、ナノ・テクノロジー・超微細技術の三分野での発展が期待されています。グローバルに、多くの人達がこの分野で活躍することになります。当然、皆さんの中でも直接間接にこの分野で活躍する人が多いことでしょう。これからは他の分野でもそうですが、取り分けこの三分野では技術革新が急速に進みます。古い知識や技術だけにとらわれていては、自分の仕事を発展させるどころか、他の人に遅れを取り、取り残されます。勿論、皆さんが大学で得たエンプロイアビリティが就業能力も消え去ってしまいます。これに気がつかず、急に思いついた時の失望感は何ばかりでしょうか。責任ある立場に昇格したり、仕事の内容が変わったり増えたりした時に、ノイローゼになり、休職したり、時には退職するという人もあります。社会人となつても常に学習を心がけることが必要です。情報システム学科二年次生の諸君が夏期学習を受講している施設はカナダアルバータ大学の生涯教育学部デパートメント・オブ・コンティニューイグエデュケーションであります。勿論、生涯学習と申しても、結局は本人に、学ぼう、覚えようとする意志があるかどうかで問題であり、自己の向上を図ろうとする内発的動機付けが必須なことは申すまでもありません。二十世紀は「知識と教育の時代」とであると言われていま。生涯学習では、放送大学を含めた大学や大学院の講座、その他の講演会や公開講座は勿論のこと、書籍、雑誌はじめ身近なマスメディアも利用することが出来ます。これから、どのような職に就こうとも、常に新鮮な知識、技能を持つよう心掛け、充実に落胆することのない人生を送ることはありませんか。

今、地球上で、北米、西欧、アジアの三大経済圏が見られるアジアには権威主義的傾向が見られるとも言われています。一方、かつての西欧文明と儒教文明の衝突に代わり、西欧文明とイスラム文明の衝突が見られるようになりました。二十世紀後半から現在まで民族主義やナショナリズムに基づく紛争が多発しました。昨年九月には米国で同時多発テロが発生しました。発生するに至った根拠や周辺の状況、並びに当事者の考え方にも大きな違いがありますが、私の年齢層に近い人達は、一瞬、日米戦争での神風特攻隊を思い出したことでしょうか。人と人が殺し合うなどとは、大変悲しいことです。幸い、今、平和なわが国に住む人達は当り前の事のように思っているかも知れませんが、静かに振り替えて、先達の努力によって得られた平和な日本の国に住める喜びを理解できるのではないのでしょうか。多数の民族の住む地球上では、他の文明に対する敬意も大切で。幸い、皆さんは諸外国の文化とわが国のそれとを対比しつつ、理解を深めてきました。これからの国際化社会、情報化社会の中で、これまで習得した知識、技能を更に伸ばし、日常の生活や仕事の中に生かして下さい。

わが国における経済不況、失業率の増大、多くの企業におけるリストラなどにより、日本国民の多くが、将来に対し漠然とした不安感を持ち、これを払拭できずにいるのが実状です。結果として、いろいろの機構や企業の間で、また人と人との間で、信頼感が希薄となり、何事にも疑いの目をもつて見ることになりました。残念なことです。

皆さんには、これからの人生の中で、「信なくば立たず」の言葉にあるごとく、篤い信頼感を寄せることができる、責任感の強い、自信にあふれた社会人に成長されることを期待しております。

桜咲く新潟の春がもう目の前に迫りつつあります。皆さんは学生という殻を破り、社会人と言う新しい衣を着けて船出することになりました。今まさに、船は港を離れんとしております。皆さんを送る役員、教職員の方々、後輩の諸君にも、皆さん一人一人の顔を見ながら感無量のものがあり、別れの淋しさがありませんが、心から微笑んで、皆さんを送ります。

「青山を残してあれば、薪なきを怕れず」精一杯努力し、活躍して、悔いのない人生を作り上げて下さい。最後に、皆さんの前途に幸多かれと祈り、沢山の夢を託し、皆さんを送る詞と致します。

平成十四年三月二十一日

祝辞



理事長

小澤 辰男

卒業生の皆さん、本日はおめでと〜ございます。また、大勢のご父兄の方々のご列席を賜り、厚く御礼申し上げます。

本学は、環日本海時代をリードするこの新潟の地に文系・理系といった枠を外し、国際化・情報化に対応できる若者を育てようという構想のもと、平成6年4月に開学いたしました。

振り返りますと、私も「国際・情報」という名前で大学設立の申請をしたところ、当時、高等教育局長を務められていた遠山文部科学大臣が、大学名はもちろんのこと、その教育内容のユニークさに驚きと深い関心を示されたことを思い出します。

その大学が今や県内では最も入学の難しい大学のひとつとなり、国際化・情報化に対応できる優秀な人材を養成する大学となりました。

本日卒業される皆さん方は、今日まで学び培った力を遺憾なく発揮し、新しい社会で存分に頑張ってください。

今日の佳き日にあたり、私は二つのことを皆さんにお願いしたいと思います。

一つは健康です。皆さんはまだ若く、これから的人生は場々たるものでありますが、健康なくしては若さも生かすことはできず、また本当の仕事もできません。私は今年満86歳になりますが、ま

だまだ皆さんに負けたくないくらいの元気があります。健康を第一に考えて、世の中のため、社会のために尽くしてください。

二つめは、読書の習慣をつけて欲しいということです。この大学での4年間を終えた後は、自ら心掛けていかない限り、勉学する機会もなかなか得がたくなります。どうか1日1時間は本を読む習慣を身につけて欲しいと思います。

皆さんの未来は、皆さん方自身が切り開いていかなければなりません。どうか健康に留意して、努力を惜しまず、豊かな人生を過ごしていただきますよう心から念じます。

皆様の未来に幸多かれとお祈りしてお祝いの言葉といたします。



(株)福田組 代表取締役社長

福田 実

卒業生の皆さん、本日はご卒業誠におめでと〜ございます。

皆さんは新潟国際情報大学在学中の4年間に多くの知識を得るとともに、さまざまな体験を通して情報収集力、分析力、判断力、直感力、創造力、実行力等々たくさんの方の力を身につけたことと思います。

私は、皆さんの新しい人生の門出にあたって、新たなお願いを一つの言葉に託して贈ります。

それは「夢見る力」という言葉です。先ほど、学長の武藤先生の告示や小澤理事長さんの祝辞の中にもありましたように、人生は与えられるものではなく、自らが選択し、自らの努力で築き上げ

答辞



情報文化学部 情報文化学科

木村 智子

本日は、私達卒業生のために、来賓の皆様、理事長はじめ諸先生のご列席を賜わり、このような盛大な卒業式を挙げていただき、まことにありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

今から四年前、私達は新たな学生生活に大きな期待といささかな不安を持って、この新潟国際情報大学に第五期生として入学しました。そして本日、私を含め二百八十五名がめでたく今日の日を迎えることができましたことを嬉しく思います。

振り返りますと、この四年間に、大学は大きく変化しました。国際交流の面においては、諸外国の大学への留学も可能になり、情報の分野では、パソコンがMacからWindowsに変わるなど、国際情報大学の名にふさわしい環境が生まれつつあります。

それにとめない、私達学生もこの大学でより多くのものを学び大きく成長することができたと思います。それは、勉強だけにとどまるものではありません。この四年間、サークルに所属し、みんな

その「夢」が実現するよう強く念じていた。共に、その過程の中で、自分が今何をすべきかを常に考えながら、あらゆる事象に果敢に挑戦してください。よう念願いたします。

どうぞもう一度、自分の人生を描き直して、明日からの新しい世界に旅立ってください。

皆さんの人生に幸多かれと心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

の目標を目指したり、初めて親元を離れて一人暮らしをしたり、バイトに明け暮れたり、自分とは違った人間性を持つ友と出会うたり、中には個人的に留学をしたり、ほかにも色々な経験をしたい人がいます。大学という自由な環境で、自分でやりたいことを見つけて選択し、自立していく。その意味でこの四年間は社会人になる前の準備期間として大変貴重なものでした。この大学生生活の四年間は、私一人ではなく、諸先生方をはじめ、家族や友人との関わりなくしては語れません。今日までご指導下さった諸先生方ならびに支えてくださった事務局の方々ほか多くの皆様に心より感謝いたします。

これから私達は、それぞれの道を歩むこととなります。社会に出ると学生時代には経験しなかった幾多の苦難にぶつかることもあると思いますが、どんな時でも自分の目標や意思を忘れることなく、自分で選んだ道を貫き、何事にも立ち向かっていきたいと思います。

最後になりましたが、学生達が今後とも自由に自分の生き方や目標を見据えて学生生活を送ることができ、さらに国内外の人材交流の場として、新潟国際情報大学が更なる発展を遂げられますよう祈念いたします。答辞といたします。

平成十四年三月二十二日

新潟国際情報大学 第五回 卒業生代表

情報文化学部 情報文化学科 木村 智子

祝電

文部科学大臣 遠山敦子 様

卒業の日を迎えられた皆様に、心からお祝いを申し上げますとともに、在学中に培った教養と学識を基礎として、さらに自らの努力を継続され、今後各分野で活躍されることを期待します。

新潟県知事 平山征夫 様

ご卒業、おめでとうございます。
皆さんの新しい門出を心からお祝いいたしますとともに、これまで培われた豊かな知識と創造力をもつて、輝かしい未来に向かい、大きく飛躍されることを期待いたします。

新潟市長 長谷川 義明 様

新潟国際情報大学の第五回卒業式に当たり、心からお祝いを申し上げます。

本日、この良き日にめでたく旅立ちの時を迎えられた卒業生の皆さん、そしてご家族の皆さま、ご卒業におめでとうございます。

また、入学以来、卒業生の皆さんを温かく見守り、ご指導に当たっていただきました小澤理事長をはじめ、教職員の皆様のご熱意とご努力に対し、深く敬意を表わします。

皆さんがご卒業される新潟国際情報大学は、開学理念として「情報化社会を先導し、国・地域・人間の文化を尊重しつつ国や地域を越えて、人類の福祉向上に貢献する。」ことを掲げておられます。国際化と情報化に対応できる人材こそが、この21世紀に求められていると思います。この理念のもとで勉学に励んだ4年間は、皆さんのこれからの人生にとってかけがえのない財産となることでしょう。

今年は、ワールドカップサッカー大会の日本での初戦が、6月1日新潟スタジアムでのキックオフで

始まります。この大会を契機に、新潟らしいおもてなしの心が世界中に伝わり、「新潟は素晴らしいまち」と人々の心に残るよう市民の皆さんと手を携えて準備を進め、世界的祭典を迎えたいと思います。

このような中、国際的感覚と情報処理能力を培われた皆さんの若い力に対する期待は大きいものがあり、この世界的な大会の開催のみならず、今後の当市の発展および社会の幅広い分野で、大いに活躍されることを強く確信しております。

本日皆さんは卒業と同時に、新たな人生のスタートラインに立つて、実社会に一步を踏み出すこととなります。それぞれの新しい道で、これからも常に向上心をもつて一層の研さんに励み、力強く未来を切り拓いていくことを、心からご期待申し上げます。

終わりに、新潟国際情報大学のますますの発展と、ご列席の皆様方のご健勝をご祈念申し上げ、お祝いのメッセージとします。

平成十四年三月二十二日

大韓民国 慶熙大学校国際教育院
院長 安栄洙 (Ahn Young-soo) 様貴大学の卒業式を心よりお祝い申し上げます。

本日、卒業式を迎えられた卒業生の皆様は四年間学業に精励され、また御自身の人格向上に努められたことと思います。私は皆様の努力、情熱に対して敬意を表したいと思います。

皆様はこれから就職あるいは進学とそれぞれが選んだ道へと第一歩を踏みだします。いずれも皆様の今後の人生を決める重要な道であり、それぞれが母校である新潟国際情報大学を代表して活躍することになります。四年間の大学生生活で身につけた広い視野と国際的な感覚で国内及び国際社会においても一翼を担う人材になれることと信じております。皆様の今後の御健闘をお祈り致します。

末筆ながら新潟国際情報大学の関係者皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。

二〇〇二年三月二十二日

平成十二年度卒業表彰

●理事長賞

情報システム学科 内田 圭

(自治体公募によるHPの作成に当たり、チームをとりまとめその作品は高い評価を得た。また、学内外のインターネット教育環境の構築に多大な貢献を果たし、本学の評価を高めた。)

●学長賞(総代)

情報文化学科 木村 智子
情報システム学科 神田 洋助

(学業成績優秀)

●課外活動賞

情報システム学科 加藤 剛

(陸上競技主将として部の発展に貢献し、国体新潟県選手権大会400Mリレーで本学の3位入賞に貢献。)

情報文化学科 今井 誠

(学生会活動に積極的に参加し、特に平成12年度は会長としてリーダーシップを発揮。)

●学術賞

情報システム学科 保科 文子
情報システム学科 山崎 亮史

(新潟県産業活性化学生会議第3回学生提言発表会で「優秀賞」を獲得。)

- ◆日本私立大学協会 会長 大沼 淳様
- ◆上越教育大学 学長 大澤 健郎様
- ◆長岡技術科学大学 学長 服部 賢様
- ◆長岡造形大学 学長 豊口 協様
- ◆長岡 大学 学長 中西 貞夫様
- ◆新潟工科大学 学長 丹野 頼元様
- ◆新潟産業大学 学長 内田 安三様
- ◆新潟青陵大学 学長 木下 安子様
- ◆新潟商工会議所 会頭 上原 明様
- ◆株芝通様
- ◆株リクルート様
- ◆株フォーラムエンジニアリング様

以上、祝電をいただき、誠にありがとうございました。

卒業生のこぼれ

情報文化学科 明石 はる菜

私の4年間。些細なことで悩み、些細なことで笑えました。県外出身ですが、新潟が好きになり、短期留学をした北京、その仲間達を大好きになりました。友達と過ごしていると楽しくて、ずっと一緒にいたいと思いました。この大学へ入学してよかったと思います。大学について悩んでいた時期が、今は懐かしく思えます。

4月からは社会人。今までだって自分なりに決断し、何とかやってこれたのだから、これからも頑張れるはず、そう思います。自分に、少し自信が持てるようになった大学時代は忘れられません。

情報システム学科 阿部 真之

四年間の大学生活の中で様々な「目標」を設定したことを憶えている。達成するのには容易なものから困難なものまで数多くあったので、卒業までに成し遂げることでできたものは半分にも満たなかったと思う。しかし、「学生生活を思う存分楽しむ」という最も大きな目標は達成することができたので後悔はしていない。多くの友人、教員の多大な協力があったからこそ、この目標を成し遂げることができたのだろう。自分に協力してくれたすべての人々に感謝している。

情報システム学科 菊地 裕人

大学生活ではたくさんの人にお世話になり、たくさんの人から愛と勇気をもらいました。マ

「つちゃん、一貴、洋一、渉、大場、細合、清田、羽賀、つち、啓は今何してる。新、タク、正喜、洋介、栄清、てつろう、文化のヨースケ、はせ、なおき、船橋、清田(せいだ)、杉野、八木、森田、行篤、準一、小野、ユウジ、タカヨシ、ふとし、友明、たかお、井越、絵里子ちゃん、栄弥子さん、みゆきちゃん、銀ちゃん、高木先生、その他お世話になったたくさんの人達、みんなほんとにありがとう。元気があれば何でもできるーありがとー！」

情報システム学科 小林 悦子

4年間という時間が短いものであったと今は思います。ありきたりの言葉ですが、卒業という一つの終焉が見えてきた時、それを中心から実感しました。しかし、その短い時間(とき)を顧みると、楽しく、充実したものでした。様々なことに出会い、経験し、それを通して多くを得ていたことに気付きました。それら全ては私にとつて、とても意義あるものとなっています。

そして、良い意味での変化を遂げ、成長した現在の自分が在ります。さらに社会人として出会いと経験を積み重ねていきたいと思います。

情報文化学科 鈴木 淳

私は大学生活を通して、1つの大きなことを学んだ。それは、常に目標をもって生活することの大切さである。大学生活では、これまでの学生生活の中でも、特に自由になる時間が多い。その自由にできる時間をどう使うのかは自分次第だが、何か目標をもって有意義に使うのと、何の目標も無く無駄に使うのでは、生活における密度が違つたのである。そして目標をもって大学生活を過ごしたことで、私の大学生活は本当に充実したものであったと言える。この経験を、

これから先の社会人としての生活にも生かしていきたい。

情報システム学科 津野 裕介

「適当」、これが私の大学生活を形容するの一番適した言葉です。ただし、この場合の「適当」は、悪い意味ではなく、「自分に適した」という意味です。

大学生活では、自分に適したことを学び、自分に適した夢を見つけ、自分に適した努力をしました。

大学に入学する以前の自分は何をやりたいのか、何を目標せば良いのか全く分からず、霧の中に居るかの様でした。しかし卒業を迎えた今、「適当」なものを見つけられたと思っています。

とても有意義な大学生活でした。社会でも、在学中に得た事を活かし、「適当」にやっていきます。ありがとう国情!!

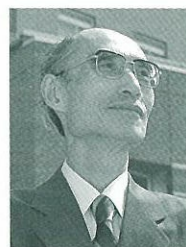
情報文化学科 渡邊 緩奈

3年の夏にカナダのアルバータ大学に短期留学し、入学時からの目標が実現した。カナダで初めて異文化に触れ、見るもの全てが新鮮に思えて、今までの考えが180度変わった。先生とホストファミリーに温かく迎えていただき、本当に感動した。相手の話す英語の大部分は理解できるようになった。一生懸命話せば、必ず相手が心を開いてくれると学んだことが大きな収穫だ。

それから、友達と励まし合いながら、厳しい就職活動を乗り切ったこと、ゼミ合宿で、仲間と共に卒論を頑張ったことは大切な思い出。大学で出会った先生方や多くの友達そして両親に本当に感謝しています。

退職・転勤される先生

平成14年3月で本学を退職される先生がおふたりいらっしゃいます。本当におつかれさまでした。今後のご活躍を期待しております。



情報文化学科 内山 欽二郎

在職年
平成8年4月～
平成14年3月

今後の予定、したいことなど

私の好きな言葉ですが、「5月の月のようにさわやかな」という、昔のイギリス詩人の言葉があります。「5月の月」のようではなくてもいいですから、学生の皆さんに「さわやかな」人間になってもらいたいと思います。



情報システム学科 市川 照久

在職年
平成11年4月～
平成14年3月

今後の予定、したいことなど

33年間のサラリーマン生活に見切りをつけて、本学に來ました。この決断は誤りではなかったと思える生活ができたのも皆様のおかげです。この度、静岡大学からお誘いいただき転勤する決断をいたしました。本学に不満があったわけではなく、単に寒い地域から暖かい地域に変わりたいと思ったからです。静岡大学では、経営情報システムやシミュレーションを教えることになりました。大変お世話になりました。

学生に向けてのこと

本学の「国際化に生きる、情報化を生かす」のコンセプトは、まさにこれらの人材に必要な要件です。言い換えれば「英語」と「コンピュータ」を駆使できる人材です。「英語嫌い」、「コンピュータ嫌い」にならないようになんばつくってください。

就職活動レポート

長引く景気の低迷に、就職を取り巻く環境は決して良好とはいえませんが、就職指導委員会では万全の体制で学生の活動をフォローしています。

学内企業就職ガイダンス

毎年2月に開催する「学内企業就職ガイダンス」。今年は2月14日(木)・15日(金)の2日間にわたって、本学体育館を会場に、各社の企業説明や質疑応答などを行いました。学生たちは自分の興味ある企業のコーナーに積極的に足を運び、真剣に情報収集に取り組んでいました。今年は晴天にも恵まれ2日間で県内最多(過去最高の二四社の人事担当者が出席。会場は、熱気に包まれていました。

就職体験講座

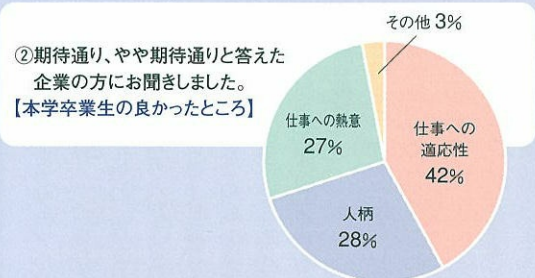
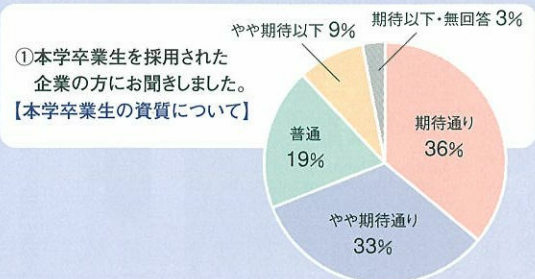
一人ひとりの学生に対するきめ細かな就職活動の環境として、2月6日(土)・10日(月)の2日間、専門家による「就職体験講座」を開催しました。1日目は、「志望動機と面接」をテーマに講演が催され、採用の流れと人事のねらい、面接の種類と企業が求める人材、これらの就職活動の進め方等についてわかりやすく話されました。その後、実際に模擬面接を実施し、一人ひとりに効果的な面接の方法についてアドバイスがありました。

2日目のグループディスカッションでは、学生が採用担当になった前提で、求める人材像を設定し、それに基づいて誰を採用するかについて活発な議論が交わされました。これにより学生は採用する側の視点を身につけ、自分が採用されるためのポイントを理解することができました。

平成14年3月卒業生主な就職先

アークベルグループ	光陽フューチャーズ(株)	燕市農業共同組合	(株)ハラダ
アークランドサカモト(株)	(株)コダマ	(株)ディスコ	はるやま商事(株)
(株)ISA	コニカNC(株)	テラインターナショナル(株)	(株)萬松堂
アイエックス・ナレッジ(株)	コマツ新潟(株)	東京北三菱自動車販売(株)	(株)ビー・アイテック
相澤内科医院	(株)コロナ	東芝ITソリューション(株)	(株)BSNアイネット
(株)アイシーソフトウェア	(株)コンピュータシステム	(株)東芝OAコンサルタント	樋口医院
アイビー企画グループ	済生会新潟第二病院	東芝情報機器(株)	(株)ビコイ
アイフル(株)	サカサ産業(株)	東芝ピーエム(株)	(株)ビット・エイ
アサヒアレックス(株)	(株)サンケイ情報ファシリティ	東テック(株)	(株)ひらせいホームセンター
(株)アジカタ	(株)三条ラバーテック	東名オフィスプロデュース(株)	(株)ピラミットフィルム
味千拉麺	(株)三宝	東洋熱工業(株)	フエニックステクニカルリサーチセンター
味の素システムテクノ(株)	(株)三和	(株)トップカルチャー	(株)フォーラムエンジニアリング
アス力教育研究所	(株)システム・テクノロジ	トナミ運輸(株)	福神(株)
石本商事(株)	(株)芝通	富山リコー(株)	(株)富士通新潟システムズ
インネット(株)	清水商事(株)	長岡市役所	古町丸屋
(株)ウオロク	(株)ジャストミートコーポレーション	(株)ナルス	(株)プレスメディア
(株)宇智草	(株)ジャパネット	新潟運輸(株)	防衛庁自衛隊(海上・航空)
(株)内山電気商会	シンコール(株)	(株)新潟オービックスシステムエンジニアリング	ホーク電子(株)
(株)エスエフシー新潟	新和証券(株)	新潟県信用農業共同組合連合会	(株)北越ケーズ
(株)NS・コンピュータサービス	(株)スミック長岡硝子	新潟県保護会	(株)北部
(株)エヌ・シー・エス	積水ハウス(株)	新潟こばり病院	(株)本多四輪販売新潟
(株)エム・アイ・ディジャパン	セコム上信越(株)	新潟証券(株)	丸三証券(株)
(株)エムテートリマツ	(株)ゼネラルスタッフ	新潟スバル自動車(株)	丸新産業(株)
(株)学生援護会北陸	全国共済農業共同組合連合会新潟本部	(株)新潟ゼロックス	(株)丸新システムズ
(株)柄長	全労済再共済連	新潟総合警備保障(株)	源川医科器械(株)
関越ソフトウェア(株)	(株)総研システムズ	新潟トヨペット(株)	(株)みやけ食品
(株)キタカタ	(株)ソルネット	にいがた南蒲農業協同組合	明和工業(株)
(株)キャッツ	ソフトウェア興業(株)	新潟日産自動車(株)	(株)メガネスーパー
キャンシステムアンドサポート(株)	(株)第一印刷所	新潟リコー(株)	安田生命保険(株)
協和リネンサプライ(株)ランド事業部	ダイエー・ダムスグループ	日通商事(株)	郵政事業庁(信越郵政局・郵政事務)
(株)クエスト	(株)大光銀行	日本アルゴリズム(株)	(株)吉運堂
クオレ(株)	(株)大成社	日本歯科大学新潟歯学部	(株)ヨシカワ
警察官(新潟・埼玉・千葉)	太平興業(株)	日本フード(株)	(株)和田商会
月刊にいがたタウン情報	中越通運(株)	日本ユニカ(株)	
交信電気(株)	(株)千代田設備	(株)原信	

このデータは、平成13年11月14日(木)本学就職懇談会の際、企業の皆様方にお答えいただいたアンケートの結果を集計したものです。今後の本学の教育、就職指導に役立てて参りたいと思います。



【学生に求める資質について(複数回答可)】

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1位…熱意/89人 | 6位…一般常識/47人 |
| 2位…バイタリティー/70人 | 7位…基礎能力/36人 |
| 3位…コミュニケーション能力/69人 | 8位…体力/20人 |
| 4位…発想の豊かさ/65人 | 9位…専門知識/19人 |
| 5位…協調性/50人 | 10位…社交性/13人 |

その他(リーダーシップ、忍耐力など)

●平成13年度就職懇談会アンケート結果(平成13年11月14日調査)
出席企業 208社 / 出席者 254名 / 回答数 135名

湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて

広報委員長 高木義和

「国際・情報」は新潟国際情報大学広報委員会が発行しています。委員会の委員の任期は2年で今年の3月に新しい委員と交代します。現在の広報委員会では新潟国際情報大学の特色として国際化・情報化に対応できる教育、少人数教育、就職のサポート、資格取得のサポートをとりあげ、新潟地域に重点をおいた広報活動を行ってきました。インターネットの活用にも重点を置き、ホームページのデザインやレイアウトの更新、英語、韓国語、中国語ページの新設・r-node、メールによる情報提供を開始しました。両学科の教員の協力によって英語、韓国語、中国語ページを運営できる体制ができたことは、他大学と比較しても画期的なことと本大学の特色を生かした結果と言えます。その他にもキャンパスプレゼンター、Webレポーターといった学生の力を活用した広報活動、オープンキャンパスの複数回開催、ZUIS Live、大学見学の対応力向上などの活動を行いました。この2年間の活動は新潟国際情報大学が新潟地域において存在意義のある大学として認知されるために大きく貢献したと確信しています。